



石坂弥次右衛門顕彰碑

興岳寺境内「源儀禮」(みなもとよしかた)と刻まれた墓碑が建っている。最後の日光勤番を務めた千人頭、石坂家十一代当主弥次右衛門義礼の墓である。

慶応四年三月十五日勤番中に急死した千人頭萩原友親の代番として日光に赴任した。赴任から一ヶ月後、板垣退助ら率いる東征軍(新政府軍)が迫ってきた。儀禮は日光を守るために戦わずに明け渡した。こうして二百十六年間に渡る千人同心の日光勤番の幕を閉じた。八王子に戻った儀禮は、交戦を推進する積極派から責められ、責任を負って自宅で自刃する。老父に介錯を望むが、力の衰えた父は儀禮の首が切れず、無惨な最後だったという。同年閏四月のことだった。

日光市は義礼の墓前に香台を供え、命を賭して東照宮を守ったその功績を称えている。

## ◇散歩のみどころ

JR西八王子駅から甲州街道沿いを八王子駅まで、昔の宿場や横丁を歩く凡そ5kmの行程。西八王子駅から東へ歩くと直ぐに、興岳寺。日光を無血開城し、責任をとり自決した儀禮が眠る。ここから、中央線の急カーブを見て日朝寺へ、そして小門宿に入る。桜横丁を横断し、空襲に耐えたレンガ塀を見た後、小門公園になっている直入院跡へ。さらに、陣屋跡の産千代稻荷神社へ。ここから、広厭坊、裁判所横丁、ごぶさ・成金・食い詰め横丁を歩き、現在松の湯がある蓮生寺跡へ。さらに、天神公園となった旧市役所庁舎跡地、本立寺横丁、梅原横丁、伝法院横丁を通じて成田山伝法院へと着く。そこから、南横丁をぬけ、馬乗宿へ。八王子唯一の映画館ニュー八王子シネマの前を通り、鬼子母神の妙経寺へ。たつみ映画劇場跡を通り、陸橋横丁へ。八王子駅南口で解散。

## ①JR西八王子駅北口

昭和十四年（一九三九）四月一日、北口側のみ駅舎が開設。昭和二十年（一九四五）八月一日から二日にかけて、八王子空襲の戦禍を免れている。当時の駅は、東側に出入口があるだけの砂利の広場だった。昭和三十年代に入ると西八王子駅周辺に住宅地が広がり、近く的高等学校の生徒の利用や一般客の利用も増えるようになった。

昭和五十二年（一九七七）に橋上駅となり、昭和五十三年には南口が開設され、バス、タクシーの発着地ともなっている。また、西八王子駅周辺独自の祭りなども催し、居住区としての重要な駅の役割と発展を続けている。



昭和28年(1953)頃の西八王子  
手前の白い建物は南多摩病院  
(タイヘイフォート太平写真館蔵)



JR 西八王子駅北口



西八王子駅 昭和 42 年  
現在の北口 撮影：萩原二郎

につぱち

## ② 二八横丁

甲州街道からJR中央線の第二水道踏切を越え、万葉けやき通りまでの約四百mの短い道路を「二八横丁」と呼んでいる。西八王子駅の南口が開設した頃からの呼び名だという。

## ③ 萬松山興岳寺



第二水道踏切

宗派 曹洞宗

本尊 東方薬師瑠璃光如来

寺宝 本尊薬師如来

聖観世音菩薩（白檀製）

木彫四天王像 木彫十二神像

石坂弥次右衛門義禮顕彰碑

随翁舜悦禅師

開基 石坂弥次右衛門（二代目）

開創 文禄元年（一五九二）

千人町一・二・八

本尊の左右に日光菩薩、月光菩薩が立っている。文化六年（一八〇九）火災で堂宇全焼。さらに戦災で全焼した。現堂宇はその後再建されたが、区画整理により敷地は分断され、本堂と墓域の間に道路が通っている。墓域に石坂弥次右衛門義礼の墓がある。千人頭石坂家十一代の弥次右衛門義礼は文化六年（一八〇九）に生まれ、慶応四年（一八六八）に亡くなっている。

弥次右衛門は、慶応四年に急死した千人頭萩原友親に代わり、日光の火の番頭として赴任した。勤番中官軍に攻められた折に、参謀の板垣退助らに日光を明け渡して八王子に帰った。しかし、一戦も交えず日光を明け渡した責任を取って自刃した。その後、日光を戦火から救ったことが認められた。法名は「興樹院殿大忍義禮居士」。墓の左右の灯籠と水盤に、千人同心四十五名と、弥次右衛門義礼の家来二名の名が刻まれている。石坂弥次右衛門顕彰碑が境内の

西隅に建っている。昭和四十九年（一九七四）、日光市と八王子市は姉妹都市となり、現在に至っている。



石坂弥次右衛門の墓



興岳寺



石坂弥次右衛門が自刃した脇差



日光市から寄贈された水鉢と花生け



千人同心石坂弥次右衛門ら



千人同心石坂弥次右衛門ら

## ●千人町

江戸時代から明治初期の町名。多摩郡由井領のうちで、正しくは八王子千人町と呼ぶ。八王子千人頭家と千人同心約百家の拝領屋敷地だったことから町名になった。

八王子横山十五宿の西に続く地域。ほぼ現在の千人町一丁目から四丁目にあたる。

## ④魔のカーブ

JR中央線の台町四丁目と追分町の間に歩道橋がある。この付近を通っている線路は、下り線が左へ、上り線が右へ急カーブしている場所として知られている。上下線共に、二本の線路は10cmの高低差もある。八王子、甲府間で一番きついといわれている。かつてより事故や暗い出来事も多かった。下り線のカーブしている半径四百mの間では、十一・四

度の上り坂になっているという。土曜日・日曜日には四季を問わず、アマチュアカメラマンが訪れてシャッターをきっているという。



中央本線で一番カーブしているところ  
追分町と台町四丁目の境



JR 中央本線台町と追分町を通る  
11.4 度の上り坂勾配の標識

同所を特急（振り子電車）が通過する様子



## ⑤ 光明山日朝寺

追分町

宗派 日蓮宗

本尊 大曼荼羅

開基 光俊院日朝上人

開創 明治十三年（一八八〇）

明治十三年（一八八〇）に開基光俊院日朝上人が體王明神を感得勸請した。明治十六年、市内横山町に朝日結社を組織し、大正三年（一九一四）、現在の朝日教会所を創立。昭和二十年（一九四五）戦禍によって堂宇を焼失したが、昭和二十三年に再建。昭和二十六年（一九五一）には、寺号公称護持経営を始めた。昭和四十九年（一九七四）に本堂と寺務所を新築。池をはさみ體王明神堂と恵満大黒天堂があり、浅野晃氏の詩碑を昭和五十八年建立。九識靈断法により人生相談を行っている。また、境内には、日蓮聖人の銅像が立っている。



日朝寺本堂内



日朝寺本堂



浅野晃氏の詩碑



体王大明神



恵満大黒天堂と  
恵満大黒天

## ● 追分町

市街地の西よりにある。大正元年（一九一二年）十月一日、町名改正の際、それまでの八王子町、千人町、久嶋町の一部が追分町となる。八王子市制施行を経て今日に至る。江戸時代の八王子横山十五宿のうちの久保宿と千人町の各一部で、江戸期すでに追分けと称される地名があり、その名が町名となったという。

## 【小門宿】

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿のうちの一つ。江戸初期に代官大久保長安が屋敷を構え、東側に表門、北側に裏門があったが、裏門前に公事訴訟の百姓宿が並んでいたことから御門宿、於門宿とも云われていたので宿名になったという。長安没後に小門宿と改め、明治十五年（一八八二年）八王子小門町から、明治二十二年（一八八九年）冠称を廃し小門町となった。本宿の横山宿、八日市宿が商業の地に対し、小門、馬乗宿は行政の地であった。

## ● 小門町

市街地の西よりにある。明治二十二年（一八八九年）八王子町の成立により小門町となる。大正元年（一九一二年）十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

## ● クランクの町小門町

小門宿の陣屋を真中にして東西に走る道がある。東側の出入口は国道十六号線付近にぶつかり、西側は日朝寺の前で右へ曲がっている。こうした道の作り方は鎌倉時代から見られ、特に戦国時代には多く作られるようになった。敵の侵入を防ぐ為と考えられ、城にも取り入れられ「枅形」と呼ばれている。小門宿の陣屋もこれに似た造りで、東西の出入口はクランクした形状となっている。

一説によると、陣屋が作られる以前、天下を掌握した徳川家康は、西の守りとして、滝山城や八王子城などの山城ではなく、出城として平城を築く計画があったのではないかといい。この計画の指揮者は不詳で、その後、江戸幕府の確立により、代官制へと規模を縮小し、城作りの構想は消滅していったのではないかと考えられる。

## ●桜横丁

八幡町と八木町の境で甲州街道を南に入り、小門町に向かう道。明治の頃、横丁の角に桜の太木があったのでこの名がついたという。また、大正六年（一九一七）、八王子尋常高等小学校（現、市立第七小学校）の桜木がこの道路に面して植えられたことから名付けられたともいう。今は、中央線の「桜横町踏切」にだけ名を留めている。



小門町に入る西側突き当たりがクランクになっている

## ⑥空襲に耐えたレンガ塀

八幡町（関谷宅）



変貌した桜横丁

八幡町（小門町と接する所）の関谷家に空襲に耐えたレンガ塀が残っている。建てたのは、関谷源兵衛氏。同氏は昭和十三年、三十三歳の若さで第七代八王子市長に就任し、八代、九代市長をも務めた。昭和二十年八月二日の空襲で、中央線桜横町踏切近くで焼夷弾を受け命を落とした。その時の姿は、鉄兜とゲートルの装備であったという。

## ⑦直入院跡（跡地は、小門公園）

小門町



空襲に耐えたレンガ塀

JR中央線の桜横町踏切の北側に小門公園がある。戦前は、慶安年間（一六四八〜五二）に随誉上人の庵、直入院があったが、昭和二十年の八王子空襲で焼失した。戦後、緑町にある市営共同墓地の隣接地へ移転した際、蓮生院と帰西寺を合併し、単立直入院となった。現在、小門公園のほぼ中央には直

入院当時からあった菩提樹の木が残っている。中央の一本は、平成十三年九月の台風で根元から折れたが、その後新芽が生えてきている。もう一本は寺があつた頃からのもの。市の公園課では、寺跡の証拠として大切に見守りながら保存するという。



菩提樹



小門公園にある榎の木

## ⑧産千代稻荷神社

勧請 鬼門除けの守護神

祭神 倉稻魂命

(うがのみたまのみこと)

例祭 二月初午 十五・十六日

家康関東入りに際し、八王子付近は関東代官が集中した所であった。慶長年間長安の陣屋内土手に鬼門除の守護神として稻荷社が創立された。大木が多く繁り、小門の稻荷森と呼ばれた。また、この神社は安産施福の神として、多摩一円に知られている。

小門町



平成13年9月の台風で折れた菩提樹根元から新芽が生えてきている



産千代稻荷神社鳥居

新編武蔵風土記稿の記述には、元禄十五年頃までは、陣屋敷の土手、井戸などが残っていたが、北の方から土手を切り崩し、さらに後年南の土手、西の土手と切り崩し、稻荷社のみ残したとある。神社入口左に、「大久保石見守陣屋跡」の碑がある。



産千代稲荷神社

## ● 甲州道中（甲州街道）

江戸に幕府を開いた徳川家康は、慶長六年（一六〇一）日本橋を拠点として、公用の旅人や物資の輸送に備え東海道に伝馬制（でんませい）を定め、各宿に人馬の継立てや旅宿施設の整備を行い、そして五街道などの幹線道路の整備も順次おこなった。甲州道中は中世から甲斐国と武蔵国とを結ぶ道を基礎として、初め江戸から甲府までが整備され、その後中仙道と合流する下諏訪まで延長された。

道程約五十三里（二〇八km）内藤新宿から下諏訪まで四十五宿三十二継といわれた。甲州道中は数宿が交代で宿継ぎを行ったり、上りや下りのみの片道継立てといった変則的な宿継ぎが存在した。

## 《八王子宿》

北条氏の滅亡、徳川氏の関東入国により、関東の新たな時代が始まる。八王子も、現代の市街地の基盤となる新たな町づくりを始めた。当初は、代官の陣屋が集中する政治的な町として、北条氏以来の性格を保持していた。しかし、その性格は次第に拡大され、甲州道中の宿場町として賑わいを見せていくようになる。近世の八王子は、まず代官頭大久保長安の小門陣屋設置により開発が進められた。

天正十八年（一五九〇）八王子城が落城した後、八王子城下から現在

の八王子市街である横山に横山宿、八日市宿、八幡宿を再建し、その後八木宿がつくられ、新しい町がつくられていった。

八王子宿は十五宿からなり、横山、八日市宿だけが伝馬宿として人馬の継立ての一切を取扱う問屋場（といやば）や本陣、脇本陣が置かれた。奇数月は横山宿、偶数月は八日市宿が交代で伝馬役を務め、そのかわりに市の開催権が与えられていた。現市域には他に駒木野宿、小仏宿があり、この二宿は交代で宿継をしていた。

## ● 小門陣屋の設置

大久保長安は行政をつかさどる陣屋を小門に構えた。屋敷内には井戸、牢屋、大師堂があり、その屋敷の広さは小門から南は現在の上野町の一部までにおよび長安の力の程が伺える。

## ●代官と陣屋

江戸時代の初めころの八王子には、多くの代官の陣屋が存在していた。

代官とは、年貢・諸役の徴収、治安警察などを行う江戸時代の民政官である。また、陣屋とは、代官が職務を行う場所のことである。

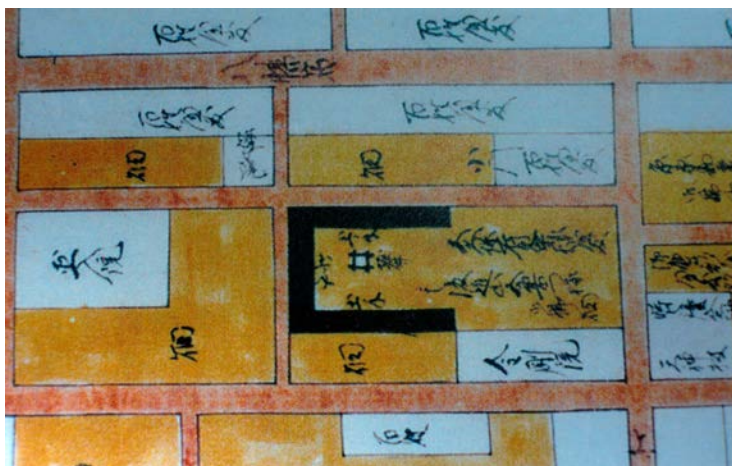
八王子の代官は、「八王子代官」、「関東十八代官」ともいわれ、八王子に在住し、武蔵国とその周辺地域の在地支配にあたっていた。

江戸幕府四代將軍家綱、五代將軍綱吉の時代になると、在地支配機構の整備によって、代官の江戸引き上げが行われ、八王子にあった陣屋も農民に払い下げられてしまった。

## ●長安屋敷跡の図

「八王子十五宿絵図」（新野家文書）には、「大久保石見守様御座敷其の後、近山五郎右衛門様御拵」とある。絵図は、元禄年間（一六八八〜

一七〇三）に描かれたもの。大久保長安の屋敷跡は、元禄年間には畑になっていたことがわかる。



八王子十五宿絵図の中の小門陣屋拡大

## ●大久保長安

天文十四年（一五四五）〜慶長十八年（一六一三）四月二十五日没。八王子総代官、関東総奉行。

甲斐武田氏の猿樂士大蔵大夫の次男として生まれた。幼名を藤十郎、のち十兵衛。信玄により兄の新之丞とともに武士に取り立てられ、貢税や司法、鉾山採掘など民政に従事した。

武田氏滅亡後家康に召しかかえられ、八王子小門宿に陣屋を構え、八王子宿を整備支配し、十八代官と千人同心を統括した。治水や灌漑にも力をそそいだ。また、街道の伝馬制を定め、一里塚を設け、各地の検地を行うほか、慶長六年（一六〇一）石見銀山奉行、慶長八年佐渡奉行、慶長十一年伊豆代官となり、金銀の生産を倍増させた。慶長十一年（一六〇六）から同十二年の江戸城拡張に際しては、八王子石灰を漆喰用に供出した。

没後、生前の不正発覚を口実に急遽家康によって葬儀を中止。遺子七名を死罪、財産没収が家康から命ぜられた。



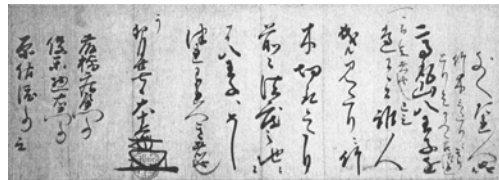
大久保長安像  
(佐渡市大安寺蔵)

## ●大久保長安制札

天正十九年（一五九一）三月二十七日、徳川家康の代官頭大久保長安が、手代の藤崎庄左衛門以下三名に對して、高尾山での竹木伐採の禁止を命じた。

「大十兵」とは、大久保十兵衛の

略で大久保長安のことである。



### 【四四】

尚々たれ人成共  
竹木ミたりニきり  
とり候ハ、早々召つれ  
可被参者也 己上

高尾山八王子近  
辺に候間、誰人  
成共ミたりニ竹

木切取候ハ、自  
前々法度之地ニ候  
間、八王子へめし  
つれられへき者也

う（天正一九年）

卯月廿七日 大十兵（花押・印）

藤崎庄左衛門との  
設楽惣右衛門との  
原 佐 渡との  
参

大久保長安制札（高尾山薬王院文書）

## ●八王子代官に関わる

### 主な遺蹟

### ○陣屋跡

産千代稻荷神社の境内に「大久保長安陣屋跡」の大きな石柱がある。碑の位置は陣屋の西端で、長安の屋敷跡と伝えられている。

小門町

### ○井戸跡

陣屋敷の中にあつて、円筒形ではなく、斜面となり、大量に水が汲めるようになっていいる。「大久保井戸」ともいいう。

小門町

### ○御所水

大久保陣屋敷にひいた水源と云われている。現在は水を見る事はできない。

台町

## ○千人同心拝領屋敷跡

千人町追分

石見守の都市計画の一つ。旧甲州街道（案下道）のところに駐屯させて守備にあたらせた。

「千人同心」はもともと、石見守支配の兵であった。長安の陣屋敷の西隣にあたる場所である。

## ○稲荷

小門町

陣屋内の稲荷であったが、後にこの町の鎮守となっている。

## ○石見土手（石見堤）

本郷町水無川東岸

浅川は、たびたび氾濫し周辺に大きな被害を与えていた。そのため長安は、堤を築いて洪水を防いだが、現在はずか堤の一部が宗格院に残っているのみである。

## ○八王子石灰

西多摩郡成木村（青梅）

江戸城、駿府城などの、壁用漆喰として使われた。

## ○藤十郎塚

元横山町

または「大久保塚」という。長安の子が処刑され、極楽寺の住職が葬ったという。今は静教保育園内の大塚であり、大木が伸びている。

## ○大久保長安逆修塔

佐渡市大安寺に大久保長安の逆修塔がある。石は福井県の笏谷石を使用し、慶長十六年（一六一一）に造られている。「逆修」とは、生前供養のことで、このとき建てた塔を逆修塔という。銘には、紀年銘のほか、「逆修大久保石見守殿」と刻まれている。塔の高さは、百十二cm、最大幅約五十一cm。



大久保長安の子息が処罰されたという伝承がある大久保塚

## ⑨ 蓬生院跡



大久保長安逆修塔（大安寺）

小門町

宗派 浄土宗 大善寺末  
 寺宝 五智如来  
 開基 津戸永心  
 開山 応誉宗呑宝  
 開創 寛永年間（一六二四〜四三）  
 現在、「松の湯」となっている所に、  
 かつて蓬生院というお寺があった。  
 しかし、昭和二十年八月二日未明の  
 八王子空襲により、堂宇を焼失した。

## ● 五智如来

この如来は、広厭坊という名僧が  
 托鉢で寄付を集め、延宝八年（一六  
 八〇）に三体、元禄四年（二六九二）  
 に二体造立された。それ以来、この  
 辺りを広厭坊横町と呼んだ。  
 当時地蔵は横丁に東向きに立って  
 おり、「五人地蔵」と称され、市民



松の湯の煙突



蓬生院跡（現 松の湯）



五智如来

に親しまれていた。また戦前、縁日  
 の八月十日にはとうもろこしを売る  
 店がたち、通称「とうもろこし地蔵」  
 としても親しまれてきた。八王子空  
 襲で蓬生院の堂宇は焼失したが、五  
 智如来は戦禍を免れた。一時小谷横  
 丁の帰西寺（廃寺）に引き取られた  
 が、現在は緑町の直入院に安置され  
 ている。

## ● 広厭坊横丁

こうえんぼうよこちよう

小門町

甲州街道から八幡町の関根商店横の道を南に入り、中央線踏切(裁判所踏切)までの道。



広厭坊横丁

## ● 裁判所横丁

台町・上野町

中央線の裁判所踏切から、南にある台町坂の都立八王子養護学校までの道。以前ここには東京地方裁判所八王子支部があった。明治三十年(一八九七)の大火で横山町の庁舎が焼失。明治四十二年(一九〇九)にこの地に移転したもの。裁判所があったことでこの名が付いた。現在、中央線の踏切に名称のみが残っている。



裁判所踏切

## ● ごぶさた・成金・食い詰・あんま横丁

小門町の産千代稻荷の近く、東側から入る道のこと。「ごぶさた」「成金」「食い詰」「あんま」などの横丁名で呼ばれている。借金や付け届け、祝儀不祝儀の不義理から逃げ回ったり、沙汰を怠ったりする人がいた。また、大正の頃、織物関係の好景気で、横丁界隈の家が急に裕福になった。または按摩さんが住んでいた等の命名には諸説ある。一つの通りに、四つも名前のつく横丁は珍しい。



ごぶさた横丁

## ⑩旧市役所庁舎跡

(現、天神公園)

天神町

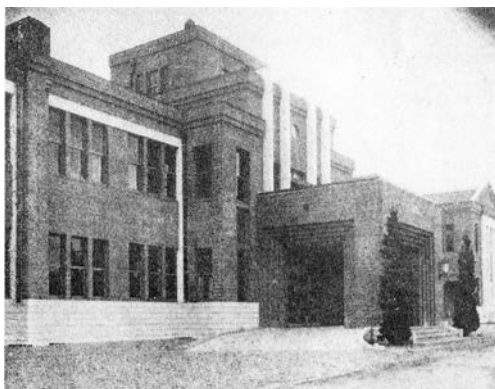
昭和十二年(一九三七)十月二十日天神町に新庁舎が落成し、十一月一日より事務を開始した。この新庁舎は、市制二十周年の記念事業として計画され、国会議事堂を模したといわれている。この庁舎は、昭和二十年八月の八王子空襲で焼失。僅か八年間市制を担ったのみ。昭和二十六年、本町に現庁舎が完成した。



市役所旧庁舎跡 (現 天神町公園)



八王子市役所新庁舎完成予想図  
昭和 12 年 『八王子郷土読本』



八王子市役所 (天神町)  
昭和 12 年 『わが郷土』

## ●八王子市役所の変遷

- ・明治二十一年(一八八八) 四月 八王子町制施行により誕生。市の前身。その後、町役場は元横山町に置く。
- ・明治二十四年(一八九一) 五月 八日町に移転。
- ・明治三十年(一八九七) 四月 明治大火により焼失。四月元本郷の善能寺に仮庁舎を移す。その後、小門町へ移転。
- ・明治三十二年(一八九九) 四月 小門町の役場が焼失したため、本町に仮役場を開設。
- ・明治三十三年(一九〇〇) 五月 元横山町の旧一府九県連合共進會本館の建物に移転。
- ・明治三十五年(一九〇二) 三月 元横山町三九二番地の元役場への移転を申請。同年四月四日認可。
- ・明治四十三年(一九一〇) 三月 八幡町の元七十八銀行に移転。

- ・大正六年（一九一七）九月  
八王子市制施行により町役場から市役所に改称。
- ・昭和五年（一九三〇）六月  
天神町市立第四尋常小学校旧校舎に移転。
- ・昭和十二年（一九三七）十月  
天神町新庁舎落成十一月一日事務開始。
- ・昭和二十年（一九四五）八月  
太平洋戦争八王子空襲により新築後八年で焼失。翌三日小宮出張所に仮庁舎を開設。その後、市立第一小学校講堂に仮移転。
- ・昭和二十六年（一九五一）三月  
本町十五番地に新庁舎を開設。
- ・昭和五十八年（一九八三）九月  
元本郷町三―二四―一に新庁舎が落成し、同年十月三日業務を開始。

## ●天神町

八王子市の中心部、JR八王子駅西側にある。大正元年（一九一二）十月一日町名改正により成立。大正六年（一九一七）八王子市制施行を経て今日に至る。町名は、天満宮（現、上野町）からその名が付いた。江戸時代の馬乗宿の一部、南端を画するJR中央線に沿って東西に延びる町。



天満神社

## ●本立寺横丁

上野町の本立寺北門から、北の甲州街道に向かって通っている細い道を本立寺横丁または、南無妙法蓮華經の法蓮横丁と呼んでいる。JR中央線の踏切には、本立寺踏切の標識が設置されている。ただ、現在の甲州街道の手前は、人が通れないほど家が密集しており、街道に抜けることは出来ない。今は、横丁名を知る人も少なくなっている。



本立寺踏切

## ●梅原横丁

八日町と八幡町の境、甲州街道から南（富士森公園）方面に通ずる道路。江戸時代に、八幡町に居住した富豪梅原家の名から付けられた。梅原家は、勘兵衛から、戦後の梅原呉服店まで旧家として知られていた。昭和四十年代以降、段階的に道路の拡幅工事が進められて完成した。

この道は江戸時代から、人力車がすれ違う程の狭さだったという。明治三十年（一八九七）八王子大火で、消防車が入れず類焼をくい止める事が出来なかった。このため梅原勘兵衛は、拡幅工事にあたり、道幅全ての土地を提供したという。また、大横町にあった大善寺山門を個人で建てたといわれ、このことから梅原横丁の名がついたという。



梅原横丁



梅原横町踏切



伝法院横丁

## ●伝法院横丁

八日町の中央、甲州街道から南新町の傳法院までの道。明治初年に、現在地に傳法院が創立された以降の呼び名である。

# ⑪ 成田山八王子分院傳法院

南新町

宗派 真言宗智山派

本尊 不動明王

寺宝 厨子入不動尊、不動明王恵比寿尊天、身代り不動尊絵馬、成田山不動明王、修験道祖役の小角、妙見大菩薩

開創 宝暦年間とも云われる

慶応元年（一八六五）八王子嶋之坊宿（現日吉町）に創立。当時、八日宿の信者達の懇望で成田山の遙拝所として慶応元年（一八六五）現在地に不動尊を奉安。戦災で堂宇を消失したが、戦後、本堂、庫裡、客殿を建立。



成田山伝法院



伝法院本堂

## ● 恵比寿天

参道左側中央に七福神の一つ恵比寿天が祀られている。恵比寿天大祭は、正月と十月に行われる。エビスは、海上、漁業、商売繁盛の守り神として広く庶民に親しまれている。また、隣には大黒天も鎮座している。



恵比寿天と大黒天



恵比寿大黒堂

## ●水かけ地藏

伝法院入口の左側には、水かけ地藏が安置されている。「オン カカビ サンマ エイソワカ」と真言を三返唱え、柄杓で水をかけて祈る。特に一日と十五日の護摩修行は、子供の無事を祈る母親の姿が多く見られる。



水かけ地藏

## ●出世稲荷堂

参道奥の左側には、「南無吒枳尼尊天」を祀る稲荷堂がある。子孫繁栄、家内安全、出世のご利益があるという。この出世稲荷堂は、明治初年、大本山成田山新勝寺から勧請したもの。また、境内には筆大師（弘法大師）、金山神社が祀られている。



出世稲荷堂

## ●傳法院の石塀

傳法院の南側には、八王子空襲で災禍を免れた石塀がある。長さは十m程、高さが二m位である。この塀は、明治三十九年（一九〇六）から四十一年にかけて甲州街道沿いにあった八王子十五宿の講中約七百軒が寄進したという。素材は伊豆の青石で、一個が幅六十cm、高さ二十四cm、厚さ十八cm。石塀には当時栄えた商店名や「横一」「久嶋」「馬乗」などの町名、「南横町」「停車場前」など現在失われている地名も記されている。また、境内の台座だけになった石灯籠にも屋号や家紋が彫り込まれている。中でも「久嶋（ひさじま）」の町名は、明治十五年（一八八二）、久保宿と嶋之坊宿が合併して誕生したもの。大正六年八王子市制施行の際、今の日吉町と追分町の各一部となった。



馬乗文字の拡大



寄進した名が彫られている石塀



石燈籠  
屋号、遊郭名、停車場などの  
文字が刻まれている



石塀に彫られている久嶋の文字

## ●南新町

八王子の市街地中心部にある。  
大正元年（一九一三）十月一日、それまでの八日町と馬乗町の一部を分割して誕生したもの。八王子市制施行を経て今日に至る。江戸時代の八日市宿の一部。

## ●南横丁

甲州街道を挟んで「小谷横丁」の向かい側が「南横丁」である。横浜街道の国道十六号線、中央線の踏切あたりからといわれている。  
安政六年（一八五九）の横浜開港により、八王子市場に集められた大量の生糸が、南横丁から「絹の道」と呼ばれた鑑水、町田を通り、横浜へと運ばれて行った。このことから南横丁の名前が付いたという。

## ⑫ ニュー八王子シネマ

昭和二十二年（一九四七）ニュー八王子の名前で洋画上映館が開館。昭和二十七年頃「たつみ映画劇場」が出来たため、松竹、日活の映画を上映した。平成四年（一九九二）まで立川と同じタツミ映画興行が営業。その後、ニュー八王子ビル株式会社が営業し、ニュー八王子シネマとして今日に至っている。現在は、四劇場で洋画、邦画を上映。映画会社の



南横町（横浜街道）



八王子ニューシネマ  
4階入り口



八王子ニューシネマ

系列には入っていないという。また、寺町にあった「たつみ映画劇場」は、現在駐車場となっている。本格的な映画館としては、八王子市では、ここ一ヶ所となっていました。

## 【馬乗宿】

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿のうちの一つ。江戸初期に代官屋敷があり武藏名勝図絵には「毎日門前にて乗馬稽古などありしゆえ」とあり、このことから宿名になったという。

## ●馬乗町

明治時代から大正時代の町名。明治十五年（一八八二）町村分合による八王子の成立にともない馬乗宿が改称して誕生した町。明治二十二年（一八八九）までは八王子馬乗町と称し、町制施行により再び馬乗町となった。大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により大部分が天神町、三崎町、南町となり、大正六年残部が中町となった。

## ● 寺町

江戸時代以来現在まで続く町名。  
JR八王子駅の西寄りにある。

明治十五年（一八八二）町村分合による八王子の成立にともない八王子寺町となり、明治二十二年（一八八九）町制施行により再び寺町となった。大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により町名が確定し、今日に至る。新編武蔵風土記稿には、「寺院多くたつる地なれば寺町の名ありと云」とある。

## ⑬ 宝伝山 妙経寺

寺町

宗派 日蓮宗  
本尊 久遠の本師釋迦牟尼佛  
勧請の大曼荼羅  
寺宝 子育 鬼子母神像  
開山 眼應院日賀上人  
開創 文和年中（一三五二〜六）  
元、千葉県八日市市場飯高にあつ



妙 経 寺

た真言宗の寺院で、文和年中（一三五二〜六）に眼應院日賀上人によって日蓮宗に改宗した。その後、明治新政府の神仏分離令により、廃仏毀釈の影響で妙経寺も無住となり荒廃した。

昭和十年（一九三五）積善院日甫上人によつて散田町に再興され、大本山中山法華寺別院の称号を賜る。八王子空襲で焼失した。昭和二十五年（一九五〇）現在地に移転し、鬼子母神堂と合併して堂宇を建立。散田町には、境外墓地が現存している。



日蓮上人



妙経寺本堂内

## ●鬼子母神

妙経寺の鬼子母神は、「八王子の鬼子母神」との別称でも呼ばれた。鬼子母神は、訶梨帝母、歡喜母、愛子母とも呼ばれ、もとは幼児を捕らえて食べる悪鬼女だった。釈迦の教化によって改心し、のちに子供を庇護する善神になったという。産んだ子供の数が五百とも、千ともいい、安産、保育の守護神として信仰されている。



鬼子母神立像と木仏鬼子母神立像



憤怒の顔の木仏鬼子母神立像



穏やかな顔の天女形  
右手にザクロ 左手に幼児を抱く



高さ1m程の五重塔



妙経寺境外墓地(散田町)

りくばし

## ⑭ 陸橋横丁

JR中央線に跨線橋が架かっている。三崎町と子安町を結ぶ陸橋である。昭和四年（一九二九）四月二十一日架設されたコンクリート橋で、八王子で初めてのピンコロ舗装の橋であった。今では、立派な橋に架け換えられている。この陸橋から、甲州街道までを何時しか陸橋横丁と呼ぶようになった。



陸橋横丁（寺町）

## ◎ 参考資料

- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵名勝図絵
- ・新・旧八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子空襲と戦災の記録
- ・八王子発見・路地散歩案内
- ・八王子の歴史と文化
- ・八王子名勝志
- ・八王子文化財年報
- ・日本総合図録
- ・明治時代の八王子
- ・江戸時代の八王子宿
- ・ONETWOエイト
- ・インターネット各ページ
- ・民族探訪事典・多摩文化
- ・まちとむらの火の用心
- ・八幡町一・二丁目町会誌
- ・ふるさと周遊散歩
- ・セピア色の風景
- ・歴史散歩事典

- ・昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ